

東日本支部 新潟分科会との意見交換会

日時 ⇒ 2014年7月5日(土) 14:00~17:00
会場 ⇒ 新潟市万代市民会館 303 会議室
参加者 ⇒ NACS東日本支部新潟分科会:11名
石油連盟:3名、NACS環境委員会:5名

意見交換会の前に石油の里を見学し、新潟にあった油田について学習した。
新潟市は今でも、住宅地に石油や天然ガスが湧き出すこともあり、ある意味、石油を身近な存在として捉えている地域である。また、暮らしの足として自家用車は欠かせないため、ガソリンに対する関心が高い人々が集まった。



参加者からは、残った灯油の処理についての質問や、民家に湧き出る石油の廃棄に困っているらしいという声、ガソリンスタンドの減少がもたらす影響についての意見が出た。

それを受けて、石連からは、規制緩和で減ってきた過疎地のガソリンスタンド対策、石油に関わる諸税の現状と要望、石油埋蔵量とシェール革命などについて説明があった。

その後の意見交換では、ガソリンスタンドは非常時に役立つ重要な施設であることを理解したので、地元のガソリンスタンドを使って支えていかなければとの声が参加者から上がった。

当委員会作成の小冊子を使った第1回目の意見交換会ということで、冊子の次回の改定につながる意見もお聞きすることができ、有意義な会となった。